

内水ハザードマップとは

内水ハザードマップは、下水道計画区域内で排水路や道路側溝の排水能力を上回るような降雨が発生し、筑後川や花月川などの水位が高くなり、排水できなくなるときに発生する浸水(内水による浸水)を対象としています。水害から事前に身を守るため、このハザードマップを有効にご活用下さい。

市から提供される避難情報について

避難準備・高齢者等避難開始

災害時要援護者などの特に避難行動に時間を要する住民に対しては、「避難行動の開始」を、それ以外の住民に対しては家族との連絡や非常時持出品の用意など「避難準備の開始」を促す情報です。



避難勧告

台風の接近や集中豪雨などにより、洪水や土砂災害などが発生するおそれがある場合に、住民に対して避難を促すものです。すみやかに安全な場所へ避難しましょう。



避難指示(緊急)

避難勧告より強く、災害発生の危険性が非常に高い場合に住民に対して避難を指示するものです。このときは、避難行動中の方はすぐに「避難を完了」させ、まだ避難していない方は「ただちに避難」してください。

防災情報の収集先



行政機関のホームページ	大分県	http://www.pref.oita.jp/
	日田市	http://www.city.hita.oita.jp/
	国土交通省 筑後川河川事務所	http://www.qsr.mlit.go.jp/chikugo/
	国土交通省 筑後川ダム統合管理事務所	http://www.qsr.mlit.go.jp/toukan/
河川の水位等の情報	気象庁 大分地方気象台	http://www.jma-net.go.jp/oita/
	大分県 雨量・水位観測情報	http://river.pref.oita.jp/
防災に関する情報	国土交通省 リアルタイム川の防災情報	http://www.river.go.jp/
	国土交通省 防災情報提供センター	http://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/
	気象庁 防災情報	http://www.jma.go.jp/jma/menu/flash.html
	大分県 安全・安心のページ	http://www.pref.oita.jp/site/bosaiizen/
	大分県 土砂災害情報インターネット提供システム	http://sabo.pref.oita.jp/dosya/

災害伝言ダイヤルを活用する

NTT西日本災害伝言ダイヤルの利用方法の例

「171」をダイヤルし、利用ガイダンスに従って、伝言の録音・再生を行ってください。



地震や洪水などの大災害発生時は、電話利用が爆発的に増加し、電話がつながりにくい状況が1日～数日間続くことがあります。このような場合は、「災害時伝言ダイヤル」が開設されます。このサービスは、大規模な災害が発生した場合、「声の伝言板」(安否情報)の役割をする電話サービスです。被災地内やその他の地域の人々との間で伝言の録音・再生をすることができます。

忘れてイナイ(171)?災害伝言171など覚えてください。「171」をダイヤルするとガイダンスが流れます。利用ガイダンスに従って、伝言の録音・再生をしてください。(※平常時には利用できません)

避難時の注意事項

避難時の心得



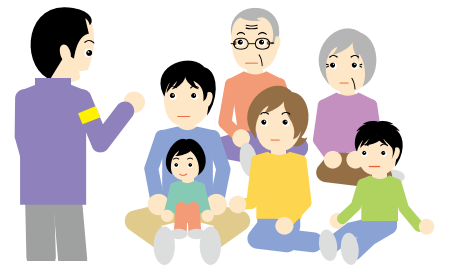
- 避難をする前に、電気・ガスなどの火元を消し、避難場所を確認しましょう。また、親戚や知人などに避難をする旨を連絡しておきましょう。



- 避難勧告などは、危険が迫ったときに出示されますので、速やかに避難しましょう。避難の際には警察などの指示に従いましょう。



- 車での避難は緊急車両の通行の妨げになります。また、交通渋滞をまねき、浸水すると動けなくなりますので、特別な場合を除き徒歩で避難しましょう。



- 避難所は行政機関や学校、あるいは施設管理者などと協力しながら避難者が主体となって運営していくことが大切です。洪水の状況に関して、ラジオ・テレビ・市からの情報を収集し、落ち着いて行動してください。

援助が必要な人がいたら...

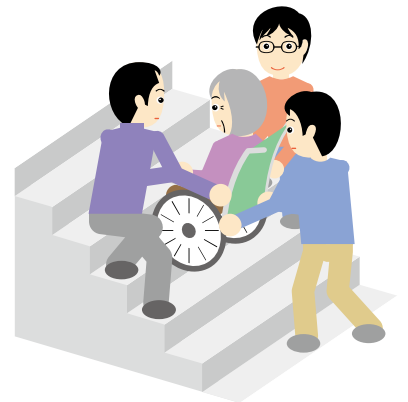
- 目の不自由な方には、まず声を掛けましょう。誘導するときは、杖を持っていないほうの肘のあたりを軽く支え、ゆっくりあるきましょう。



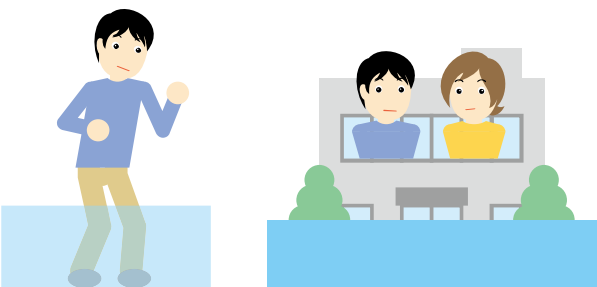
- 耳の不自由な方には、近くまでよって相手にまっすぐ顔を向け、口を大きくはっきり動かしましょう。また、紙とペンで筆談しましょう。



- 身体の不自由な方には、それぞれの人に適した誘導方法を確認し、恐怖感を与えないように配慮しましょう。



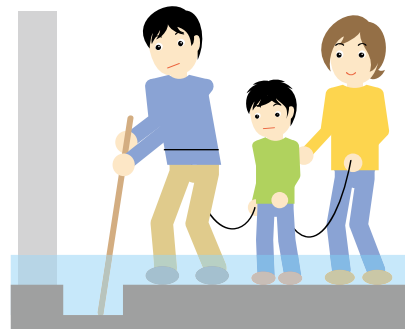
洪水の中を歩くときの注意事項



- 歩ける水の深さはひざの高さまでです。流れが速いと20センチの深さでも危険です。無理をせず建物などの高所で救助を待つのが安全です。



- 高齢者や身体の不自由な人などは背負いましょう。幼児は浮き袋、乳児はベビーバスを利用するなどして安全を確保し避難しましょう。

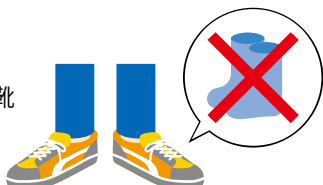


- 水面下では、側溝や水路・道路の段差やマンホールなど危険が潜んでいます。長い棒を杖代わりにして安全を確認しながらあるきましょう。



- はぐれないようにロープを掴むなどして避難しましょう。特に子供から目を離さないように注意しましょう。

- 裸足・長靴は禁物です。ひもでしめられる運動靴が動きやすい。



内水ハザードマップに関するお問い合わせ先

日田市 上下水道局 施設工務課

TEL (0973) 23-3111
(0973) 22-8102(ダイヤルイン)

FAX (0973) 22-8247